様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２１年　３月３１日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2006～2009
課題番号：18320014
研究課題名（和文）　思想史的社会史的史料としての科挙答案に関する基礎的研究
研究課題名（英文）　A Basic Study of Civil Examination Papers as Historical Materials in the Pre-modern China

研究代表者
三浦　秀一（MIURA SHUICHI）
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80190586

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・中国哲学
キーワード：科挙・中国哲学・東洋史・登科録

１．研究計画の概要

近世中国において実施された官吏登庸制度である科挙のその問題や答案が、思想史的あるいは社会史的に見た場合、如何なる史料的価値を有するのか。本研究は、従来ほとんど見過ごされてきたと言えるこの問題に取り組むべく、まずは研究の基礎的段階として、問題や答案それ自体の蒐集から着手するとともに、それと平行して史料の個別的あるいは総体的な読解をすすめ、その過程において、科挙の答案を分析する手法を構築している。ただしその対象範囲は、おびただしい数量の答案が国内外に散在する清代は除外し、宋から明末までに限ることとした。

２．研究の進捗状況

各種科挙答案のなか、元代の「策」、明代の「四書義」、「五経義」、「策」、「論」について、その基礎的情報を網羅的に調査することができ、また実際の答案に関しても、入手可能な範囲で蒐集し、個別的な分析をおこなってきた。調査の対象は、本研究課題の助成金を使用して購入した四庫全書系列の大型叢書や、『天一閣蔵明代科挙録選刊・登科録』および同『会試録』、東北大学がすでに所有していた『明代登科録彙編』、さらには日本国内の諸機関が収蔵する各種の刻本であり、それらのなかに収録される第一次史料としての「試録」や、『皇明貢挙考』・『論程文選』などいわゆる挙業書、および個人文集所収の科挙問題および答案を分析した結果、それらの全体的な傾向性と、受験生の政治的思想的関心事を探ることができた。

如上の作業と平行して、当該時代の科挙に関する先行研究を一覧表にリストアップしたうえで、本研究となんらかの関連を有する研究論文に関しては、その知見を吸収しつつ本研究の方法論的あるいは個別課題の向上をはかった。また、作業によって得られた成果に関しては、その一部を、各種の研究集会や学術雑誌において、口頭もしくは活字のかたちで公開している。

そのなかでもとくに研究集会に関しては、本研究課題に関わる研究者を中心メンバーとして応用科挙史学研究会を結成し、同研究会主催の研究集会とワークショップを、これまで６回開催してきた。その間、中国における科挙研究の第一人者である廈門大学の劉海峰教授や書院研究の湖南大学鄧洪波教授ほか海外の研究者とも意見の交換をおこない、本研究が国際的に見ても大いに意義のあるものであることが確認できた。また、上記劉教授の推薦を得て、本研究課題に携わる４名の研究者が、中国天津で開催された「第四届科挙与科挙学学術研討会」に参加、報告をおこなったことも特筆される成果である。

３．現在までの達成度

達成度は、②と判断する。その理由は、上記進捗状況に述べたとおり、科挙の問題および答案が、そもそも当該時代の思想史的社会史的史料たりうることを示し得たからである。すなわち、それらからは、或る知識人の思想の一端が読み取れるとともに、それらを総合的に捉えることにより、時代社会が抱える諸問題や当時の人びとの心性を浮かび上がらせることが可能であること、しかもそうして得られた成果に対しては、国内外の学界から一定の評価を獲得したことによる。

４．今後の研究の推進方策

　これまでどおり科挙関連史料の蒐集と分析をつづけ、そこで得られた成果をその都度公開するとともに、国内外の研究者との意見交換をすすめる。なお２１年度は、本研究課題の最終年度でもあることから、過去三年間において積み重ねられた多様な成果については、その問題点を析出しつつ取りまとめをおこない、さらにまた将来の発展的な研究課題を生み出す基盤を作りあげたい。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１４件）

１．三浦秀一、学生呉澄与南宋末葉的江西書院、湖南大学学報、査読あり、第 98 巻、2007 年、41-50 頁

２．鶴成久章、明代の科挙制度と朱子学、中国－社会と文化、査読あり、第 22 号、2007 年、44-59 頁

３．大野晃嗣、明代の進士観政制度に関する考察、東北大学文学研究科研究年報、査読なし、第 56 号、2007 年、87-128 頁

４．渡辺健哉、近年の元代科挙研究について、集刊東洋学、査読あり、第 96 号、2006 年、83-93 頁

５．鶴成久章、明代余姚の『礼記』学と王守仁、東方学、査読あり、第 111 輯、2006 年、123-137 頁

〔学会発表〕（計１５件）

１．鶴成久章、明代科挙と陽明学、東方学会第 58 回全国会員総会、2008.11.8、京都・京大会館

２．三浦秀一、明代科挙『程論』管窺、第四届科挙与科挙学学術研討会、2008.10.15、中国天津・天津市教育招生考試院

３．渡辺健哉、関于元代科挙中的『策問』与『対策』、第四届科挙与科挙学学術研討会、2008.10.15、中国天津・天津市教育招生考試院

４．大野晃嗣、明代『官年』現象的考察、第四届科挙与科挙学学術研討会、2008.10.14、中国天津・天津市教育招生考試院

５．熊本　崇、元祐の吏額房、第 57 回東北中国学会大会、2008.5.25、札幌・北海道大学

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕

特になし